

強化戦略計画策定に向けた論点整理について
(パラローイング委員会)

1. 今後の強化活動における目指す姿と目標設定について

- (ア) 世界の強豪国との差が広がる中、我が国のローイングコミュニティは強化活動において何を指して(目指す姿)取り組むのか。

両輪である普及活動で選手層を厚くすることが重要と考えるが、当面の強化活動の目標としては、オリ・パラ・世界選手権で8位以内の成績を出すこと(強化費がレベルアップする)

- (イ) 上記の目指す姿を実現するため、2028年ロサンゼルス大会ではどこに目標を定め、何の種目を強化するか。また各種目の優先順位をどう考えるか。

- オリンピック競技(クラシック・コースタル)
- パラリンピック競技(パラローイング)

オリ・パラともA決勝以上。27年シーズン以降は、本番でA決勝進出可能性の高い種目を優先

- (ウ) 設定した目標を踏まえ、強化活動を担うコーチ並びにマネジメント体制をどう考えるか。また体制整備において、優先すべきことや今後の課題についてどのように考えるか。

オリ(クラシック)については、ヘッドコーチの選任とコーチの増員、パラについては女性スタッフ増

2. 選手の発掘・育成・強化の計画について

- (ア) 2024強化総括では、行き過ぎた個の重視による弊害について指摘がなされたが、JARAの目指す姿や重点種目の特性を踏まえ、日本代表クルーの育成及び選考についてどのように考えるか。

オリ知見なくN/A。パラは日本チームの育成・選考よりも、その下のレベルでの選手発掘・育成環境をつなげることが重要。

- (イ) オリンピック競技では、ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化が不可欠である。ローイングにおける基本的な能力(漕力)を向上させるための育成プログラムはどうあるべきか。

① 我が国の現状と課題を踏まえたトレーニング・プログラムの改善・普及

まずは、他競技との人材獲得競争に打ち勝ち、高校・大学で競技者人口を増やすことが重要。そのためには、当競技の優位性訴求ノウハウや部員獲得ノウハウの共有を図るべきと思う。育成については、各年代毎の基本的な育成プログラムを作成・普及させることにより、全体の底上げが図れると考える。

② パフォーマンスの最大化、アッパーリミットの引き上げに向けた施策

知見なく N/A

- (ウ) パラリンピック競技に関しては、アスリートの発掘が最も重要な課題となるが、既存プログラム(J-STAR)に加え、都道府県協会や他の競技団体との連携の在り方をどう考えるか。

パラ選手の強化には、実業団がパラ選手に門戸を開いていただくことが重要と考える。

3. 選手強化に必要な環境整備について

- (ア) ジュニア、U23、シニアの各カテゴリーのシームレスな育成・強化に向け、JARA が担う役割の範囲についてどう考えるか。また、選手の所属団体や指導者との連携をどう図っていくべきか。

トップレベル選手の生活や身分が安定し、選手の人生設計と選手育成パスウェイが矛盾ない環境を作ってこそシームレスな選手強化が図れると考えるが、この環境づくりは NF にしかできない。まずは、なぜシームレスでないのかを調査し、共通認識を持つてから環境整備の課題に取り組んではどうか。

- (イ) 競技力強化のための日本式メソッド(トレーニング・プログラム、技術・戦術)の確立に向け、JARA 内にどのような体制を整備する必要があるか。

競技人口を増やし、メソッドを普及させるための普及活動を全国的・年代別に行うには体制弱く、従来の普及委員会・指導者育成委員会の範疇では収まり切れないと考える。

- (ウ) 海の森水上競技場や戸田ボートコースの利用実態やニーズを踏まえ、トレーニング拠点(国内外)に求められる機能や設備。

海の森は、交通手段と食事(近隣商業店舗ない) が課題。